

(註一) 原註 Pelliot, *Toung Pao*, xv, 1914, p. 637 :

"L'origine d'irkägin est beaucoup plus obscure.

(註二) 原註 The parallel form with an alif, namely *arkayun*, is only a *scriptio plena*, as usual in Turkish and Mongolian words; it must be read *irkävin*, not *irkayun*.

以上がミノルスキの提出した臆説であるが、臆説はどこまでも臆説であつて、なほ腑に落ちない廉もある。すなはち東方アジアと連絡のないものを以て解かんとするドエリア説に比べると、これは東方語に基づくとする點で一日の長を認めるけれども、同時にクリスト教と關係のない語で説明せんとする點は、無條件にはうけいれ兼ねる所である。思ふに、これの解決は中世の中央アジアに於けるクリスト教の歴史が更に明らかにせられた將來を俟たねばならないものであらう。ミノルスキの考へはさういふ線に沿つてゐる點を買つて宜い。

廣東月令 (鈕琇觚賸)

正月 蟄氣成樓、水仲來賓、荷錢浮於水、二麥黃、木葉微脫、

二月 蔗初芽、蔗拳輪粉、魚苗生、蜺降於霧、木綿吐英、杜若芳、石蠹揚葩、江鷗避風、孔雀之尾開金、楨榔包圻、

三月 佛桑紅綻、高榕蔭日、仙人掌、薰入山蘆化爲虎、樹蘭綴珠、

四月 荔枝丹、菩提舒葉、椰含漿、群蟻朝其祖、鈞割鳴年、

五月 白雨足、西潦至、芭蕉子垂、苦瓜入饌、早禾乃登、

六月 秧針重碧、龍眼熟、蝴蝶營繭、素馨結爲燈、蘿田浮、

七月 颯母息影、茶徙蟪於樹、紙鳶翻風、黃柑分指、河鮑乘潮而上、

八月 紅薯登、白糴落、嘉魚出於峽、南燭迎社、香門開、

九月 耕牛放閒、八蠶之功畢、嶺梅芳、橘柚錫貢、銀河夜見、

十月 桃李花、鷓鴣蔽葉、黃雀復爲魚、巖蜂聚蟻、瑞香霏雪、

十一月 蚊不絕吟、池塘竭、稚筍出、風蘭賀春、舊雷有聲、

十二月